令和３年度　小平市公民館運営審議会自主研修会（８月）

１　開催日時　令和 3 年 8 月 10 日（火）14：00～16：15

２　開催場所　小平市中央公民館　講座室 2

３　出席者　　小平市公民館運営審議会委員　10 名（うち Zoom 参加者 3 名）欠席 1 名
小平市公民館事業企画委員会委員　9 名（うち Zoom 参加者 3 名）
事務局 中央公民館長、館長補佐兼事業担当係長、管理担当係長、
分館担当係長 6 名（上水南・小川西町・津田・鈴木公民館欠席）

４　次第　　「公民館事業企画委員会について」
（１）事業企画委員会に関する成果と課題
（２）事業企画委員会からの悩みや要望
（３）今後の事業企画委員会について

会議の概要

１　事業企画委員会に関する成果と課題

事務局より説明した。

・見えてきた課題

①講座の実施回数の減少、②状況変化への対応、③委員構成の違い、④委員人数の確保

・委員の負担を軽減のために

①分館の事業企画委員会への人的支援、②企画シートの簡素化、③事業企画委員会企画と職員企画の併用

・委員と職員のスキルアップのために

①企画講座の見学、②職員の事業企画委員会への派遣、③事業企画委員会の目的等の再確認

２　事業企画委員会からの悩みや要望

中央公民館（村﨑）　中央公民館は、分館と違い地域の特性については、「小平」という地域性を意識している。各委員も全市的に活動している委員が多い。中央公民館には職員が多くいて、できるだけ参加していただいている。効果としては、公民館が行政と市民活動をつなぐ窓口に成り得ていると思う。コロナで、いろいろな課題が出た。欠席ということを無くし、メールなどを駆使して、全員が参加するという形をとっている。今年度は、コロナ禍ということもあり、企画シートの簡素化にチャレンジし、試行錯誤しながら取り組んでいる。タイムリーという意味で、職員から、今、必要な講座などの提案があってもいいと思う。

小川公民館（分館長）　当館は、7 区分の講座の全分野で企画しているが、今年度は、防災・生活安全講座が案を出し尽くし、職員から提案することとした。その結果、事業企画委員の負担軽減につながったのか、他の区分の講座について、良い案がかなり出たと思う。委員の負担軽減について、職員提案の講座があってもいいのではないかとさらに検討していく。

花北公民館（黒沼）　悩みについては、各委員が忙しく、休みが多い。大事な検討段階で休みとなると、なかなか難しい。委員の確保が大事である。花北公民館の表を見ると、公民館利用者 5 人、学校、民生委員が各 1 人、新しいアイデア出しのためにもっと幅広い層から委員を集めた方がいい。また、ボツになったアイデアもその次の年に実現することも可能だと思う。また、次の委員を選出するとき、途切れないような体制を整えたらどうか。当館は小学校と複合化する予定である。新しいアイデアについて考えれば、小・中学校の子どもにも、夏休みなどに委員会に入ってもらうようなことを考えたい。委員さんを減らさないような増やす状況を作りたい。

上宿公民館（分館長）　悩みについては、これまで出た話と同様である。今年度について、3 回目まで終了した。3 回目以降、対面とオンラインのハイブリッドで実施していく予定である。

上水南公民館（渡邉）　高齢者が中心となっていて、顔なじみで意見はよく出るが、マンネリ化していると思う。新しく入居した世帯は、なかなか自治会に入ってくれないし、事業企画委員会にも入らない。先ほどのご意見にもあったが、小・中学校の子どもや親などの若い人の意見を聞いてみたい。委員について、話好きが集まっていると感じている。話が嫌いな人の中でも、地域を良くするための良い企画案があると思う。毎年企画していて、いつもこれでいいのか不安である。

小川西町公民館（市東）　委員は 18 人いて、出席率はいい方だと思う。毎回、委員の情報交換から始まる。企画案はとても多く出て、選別するのに苦労する。目指すのは、仲間づくりのみならず、地域できる子育て支援や高齢者の見守り支援など、課題解決に結びつく講座の企画に力を入れている。講座実施後も地域に還元できるようなことを願っている。子育て支援講座終了後に、誰でも食堂を立ち上げたい。そのために、調理室と集会室を同時に借りたいが、公民館のルールだと一緒に 2 部屋を利用することができないので、そのあたりの変革を要望する。

花南公民館（浅岡）　小平市全体の人口は減少しているが、花南地域は、微増である。子どもも増えて、小学校も増築している。当館の運営については、ほとんど、説明のあった成果と課題に取り上げているものと変わらない。提案としては、花南公民館の地域だけでなく企画の中身によっては、地域を超えて関心を持たれる問題もあると思う。応募者数が多い講座などは、他館でも取り入れる道を作った方がいい。また、公民館はお客さんを待っているだけだが、出前

の企画はどのようにできるのかが課題だと思う。津田公民館の藤田さんの資料で、在宅で参加できる企画というものもあるが、2月の審議会の講演会では、「大学生の参加を確保するにはどうしたらいいか」、との質問に、講師は「待っているだけではダメで、出前しないとダメ」と言われた。また、１本の講座の回数が減ってきた。回数が減っては、サークル化が困難だと思う。サークル化は公民館にとっては肝だと思うので、ここが課題だと思う。なお、委員が高齢者ばかりだとの発言があったが、利用者の委員の若返りをどうするかも課題だと思う。

仲町公民館（分館長）　本日、委員が欠席のため、要望として聞いている。①講座の回数について、予算措置の段階で企画委員会での回数と異なるので委員会の意見を尊重してほしい。②オンライン講座の推奨として、Ｚｏｏｍなどを使えるようにしてほしい。③講座の内容によっては、実行委員会のように動いていることもある。前日準備などで貢献する委員には、多少なりとも予算措置があるといい。

津田公民館（藤田）　津田公民館は、特段、運用・課題などの問題は無いように進められていると思う。
講座に参加された方に、講座終了後に地域還元するように話をしてほしいと思う。サークル化になかなか結びつかないことが課題だと思う。サークル化に結びつくような企画が大事だとも思う。また、もう少し力を入れたテーマづくりが必要だと思う。材料費が高い講座について、なかなか企画するには二の足を踏んでしまう。
今後の事業企画委員会について、サークル化に結び付けられるような講座の選定。講師の選定が容易な講座の企画。在宅でできる仕組みを作りたい。けん玉の講座を企画したが、資格の講座にした方がいいのではないか。お茶・お花・料理・手話など資格取得につながる講座の企画がいいのではないかとも思う。
蛇足ではあるが、小平市の歴史と文化を学ぶ講座を実施した。このような講座は講師が固い話になって、意見交換が少なくなる。地域に戻って還元するにもなかなかできない。一方通行の講義の講座ではなく、双方向の講座ができないか検討した。先日、職員に聞いたところ、なごやかに意見交換ができていた、と聞いた。私の経験談としては、地域の歴史と文化をお話しして、みなさんの意見も聞いたことがある。

大沼公民館（岩川）　審議会委員を終了後、大沼公民館の事業企画委員となった。企画スケジュールの進め方が明確でマニュアルもあり、他館の講座内容、過去の内容の資料なども多い。見やすいし、取り組みやすい。企画シートも以前からは簡素化されている。ただし、初めての委員には、企画シートの記入は負担感があるのではないか。なるべく多くの企画が出るように簡素化されたシートがいいと思う。当館では、企画シートを提出後、職員が肉付けをして、委員で協議するという形になっている。以前に比べ、負担感は減少している。
また、中央公民館の応援職員は頼りになる。困ったときに経験談や適格なアドバイスをいただける。ありがたく思い、助かっている。一方で、委員の人選が難しいと思う。学校関係者として委員をしているが、後任者がいない。委員の交代がないと、どうしても

提案内容の固定化があるのではないかと思ってしまう。公民館利用者が一番ニーズに近い提案ができると思うが、利用者は高齢の方が多い。コロナの中、現在、メールでのやり取りが不可欠であるが、高齢者にとってはそれも負担感があるのではないか。メンバーを新しくするには、館長の声掛けもやりつくした感じがあり、行き詰っているのではないか。学校と地域の協働活動が重要視されている。公民館から地域教育コーディネーターに声掛けして、一緒に地域の課題を解決しませんかなどと、声をかけていただけたらと思う。

鈴木公民館（真部）　2021 年度の開始当初は、14 人のメンバーで、多少、ぎくしゃくしていた。前回くらいから、抵抗なく動けている。成果と課題の説明と重複しているが、悩みより疑問と提案を述べる。委員会の時間帯について、コロナという理由で、夜間から昼間になった。また、理由の一つとして、教職員の働き方改革が原因とのこと。教職員以外はどうなのか。各館の委員構成で、鈴木の学校関係者 4 人は 2 人なのではないか。私は青少対だが、青少対 0 人となっている。実は、前回、40 代くらいの方は、半日休暇を取って出席している委員がいた。もし他にもいるなら、出席率が減少するのではないか。もしいるなら、考え直さなければならない。企画を提案した人は、希望すれば、講座に出席していいと説明されていたが、その機会を与えてほしい。必要に応じて、講師の手伝いもできると思うし、将来的にサークル化の助言をすることもできるのではないか。

３　今後の事業企画委員会について

会長　いろいろなご意見を伺った。すべてのご意見について、検討することは難しい。テーマを絞って話を進めたい。ご意見を伺いたい。

瀧口　・サークル化を目指すにはどうすればいいのか。
・講師はどうしらいいのか。
・市の他の部署との連携はどうするのか。

渡邉　・サークル化で大変なのは事務局。誰が細かいつなぎをするのかが必要だと思う。
・小学校の出前講座で消防の話をしたことがある。若い人にも地域を知ってもらう。学校でも地域の人の話を聞いてもらうことが大事ではないか。出前講座を公民館で補えないか。小平の歴史でも地域の方から話してもらうことでもいいのではないか。

藤田　疑問点だけ申し上げる。今回の自主研修会の本来の目的がわからない。事業企画委員会がこのままの状態で満足しているのか。いろいろな課題があるので、探りたいのか、その辺をはっきりして討議していただきたい。複合化の話も出ていたので、学校とよりコンタクトしていくのか、今後は変わっていくのかという疑問がある。

会長　花北公民館から、子どもたちを事業企画委員会に招きたいという意見があった。他館からも学校との連携を重要視したいとのご意見も出た。今回の自主研修会は、事業企画委員の悩みや課題を直接伺い、事務局の資料もできたので、見えてきたものをまとめていきたい。これが、自主研修会の目的である。
サークル化について、講師について、公民館の他部署とのつながり、出前講座についての意見があった。サークル化について、なかなか結びついていかない、ということについて、もう少しご意見を伺いたい。公民館としては、講座終了後は、できるだけサークル化をして、学んだものを地域に還元していくコミュニティを作っていくということもある。サークル化について、企画の段階で課題があるのかということも含めご意見を伺いたい。

藤田　公民館講座は基本的な「序の口」を講義する。そのままだったら終わりで、学習を深めて地域に還元するためにサークル化はしてほしい。新しいサークルなのか、または今あるサークルの増員をするのかをはっきりしたいと思う。

久米　講座の企画段階で、サークル化に結び付けたいというものを出しておかないと難しいのではないか。企画段階で、サークル化について、どのように進めていくかも追加したらいいのではないか。

瀧口　同感です。企画の段階でサークル化したいと講師を頼むにしても難しい。小川西町では、ボッチャ、歴史、引きこもりについてサークル化した。分館長の強い思いもあると思う。また、サークル化には、地域をもっと限定することが必要だと思う。全市的に募集をかけると、一時的にはつながるが、長く続かない。講座募集時に、サークル化を目指すのであれば、近くの地域を優先することを考えることも必要ではないか。公民館の基本的な方針を変えないと難しいと思う。

会長　企画段階でサークル化についても検討しておくといいと思う。鈴木公民館の出張カフェの講座は、初めからサークル化することが前提で講座を受講した。

真鍋　すずき花カフェはお金が関係するが、赤字は出ないのか。

会長　出張カフェにはお金がかかる。社会福祉協議会で手続きをして、4 万円程度の助成金で材料を揃えてもらったが、現在赤字は出ていない。1 年間で 29 か所出張した。当初は、分館長の強い思いもあって、この講座の終了後は、サークル化するんだということがはっきりしていた。

木島　小川西町公民館でサークルの責任者、中央公民館ではサークルの講師もしている。人の輪が大事だと思う。長く続けていくにも、新しく立ち上げるにも、その雰囲気や役割分担が大事。それを作り出すには講師の力量、職員の尽力が必要だと思う。毎回の講座の中で、みんなの輪ができていくような、お互いが声を掛け合っていくような場面の設定、つながりを作っていくよ

うな講座内容の設定が大事で、講師や職員の方の声掛けが必要だと思う。

入江　今は、サークル化の話だったが、全体の話を聞いていて、もう一つ、新しい層、学生、生徒も事業企画委員会に入ってもらったらどうかとの話があった。これは、別々の議論ではないのではないか。学習を地域に還元していくには、サークル化そのものが目的ではなく、地域への還元や地域参加による課題解決が重要視されていると思う。活動に結び付けていく鍵になるのは、実践の内容があることと、居場所があることが大きい。目的をもって活動ができて、居場所があることが大事である。今、子どもの貧困について実践をしているが、子どもと関わる実践があり、それについて悩んだり話し合ったりする時の居場所があること。公民館講座の企画段階から踏み込みながら、進めていけるか。それがサークルかも知れないし、社会人、ママさん、ビジネスかも知れないし、学業かも知れない。サークルと言うと少し遠いかもしれない。地域に何を生み出していきたいのかを前面に、コンセプトを明確化して、実践や居場所を組み立てることが必要なのかと思った。

市東　子育て支援から「誰でも食堂」ということに繋げたい、サークルという言葉に違和感があった。サークルという言葉は府に落ちなかった。事業企画委員会の中から出た子育て支援講座だが、高齢者でもいい、「誰でも食堂」となった。何か提案できればいいと思った。

久米　サークルというよりも継続して行う子育て支援事業として考えればいいのではないか。子育て支援には、食堂もあるし学習支援もある、皆さんの得意分野で協力していけばいいと思う。

市東　公民館の居場所を使った事業と言われると何となくしっくりくるような気がする。

入江　皆さん思い描いているサークルと、事業、プロジェクトの中身はほとんど一緒だと思う。サークルというイメージは、集うということが全面に出ている。新しい人の参画、短期で目的を達成するものは、プロジェクトと呼んでいるが、サブネームを一つひとつ考えればいいと思う。企画の段階から、これはこのようなプロジェクトにつながる企画です、のように出てくればいいと思う。課題解決に結びつくような活動をしていきたい人には、サークルという言葉に違和感があることはわかる。

会長　サークル化する際に、職員の尽力という話もあったので、事務局がどれだけ支援、またはカバーしてくれるのか、との話も聞きたい。

館長　サークル化の一つのポイントとして、職員を挙げていただいた。職員のスキルアップは大事。ただし、市の職員は、数年で異動がある。突然、公民館に異動する。全ての職員が十分な対応ができるとは思っていないが、公民館では情報共有しながら、サークル化についてもスキルアップに努めていきたいと思う。職員も努力しているが、足りない部分は、委員の皆様からご意見を伺いたい。

瀧口　館長の話はもっともだと思う。館長の仕事は、誰かにその役割を押し付けていくこと、その推進するグループに、館長が押し付けていけばいいと思う。その後、サポートするということでいいと思う。それには、職員の力量というより、そのようなシステムを作ることだと思う。実際の活動は、サークルが主体で行うし、そうでなければ続かないと思う。

会長　審議会委員から一言ずついただきたい。

井口　実践の内容があること、居場所があること、何を課題にしていきたのか、それらを明確にして課題解決に向けていく、ということが大事だとの話があった。どのようにしていったら実現していくか、まだ、イメージがわかない。若い保護者の人たちの中には、特に地域の人間関係が薄いところでは、相談したくてもどこに相談していいかわからないで孤立していることもある。その人たちに働きかけて、居場所があることがわかるといい方向に向くと思う。公民館は可能性を持っていると思う。一方、若い方は、プライベートも大事にする。サークルにすべて捧げることには抵抗感があると思う。それには、役割を分散する、そのシステムを作ることで、負担はあるが、分散させることを示していくことが重要だと思う。サークルを作るとなると抵抗があるが、居場所を作る、助け合う、地域で子供を育てていくことに参加しませんか、という大事なことを伝えて、賛同する人に入ってもらうといいと思った。学校がどう関わるかはまた学んでいきたい。

荒井　若い保護者に働きかけるのは、いいことだと思った。今、コロナで一番弱いところに歪がいっている。子どもが苦しんでいる。そのような子どもを学校だけで見つけることは難しい。学校でも地域でも見つけ出して、支援していく。公民館がその中に入っていけたらいいと思った。

江口　事業企画委員会の方々に伝えたいのは、サークル化だけを念頭に置かなくてもいいのではないか。シルバー大学の経験から半年くらい顔を合わせて、初めてサークル化するので、数回の講座ではできないと思う。サークル化するという案件と、居場所を作るという案件とを、あらかじめ区分けして年間の事業の企画をまとめていったらいいのではないか。「誰でも食堂」の話で、部屋を１つしか使えないということは、行政の悪いところだと思う。時代が変わっていく中で規制やルールを変えていったらいい。サークル化、居場所ということもあるが、コロナは、来年も続くかもしれない。それよりも、Ｚｏｏｍなどのオンラインなどで新しい参加者を増やすことなども踏まえて、多角的に全体的なスキームについて、行政や公民館予算を含めて対応するべきだと思う。

宗像　25 年、山登りのサークル活動をしている。25 年前に小川公民館で講座が開催され、サークル化した。小川公民館で一番古いサークルとなり、メンバーの高齢化が進んでいる。最近はコロナで、フィールドに出られていない。山にはコロナは無いと思うが、行くまでのリスクがある。山に登って高山植物がある、動物と会うが、今は登れない状況。それでもサークルが続いてい

るのは、月に１回、定例会をホールで行っている。最近は山に登っていないので、昔、山に登った話をしている。健康維持の目的の会なので、メンバーは今、玉川上水、野火止用水を歩いている。目的があって、居場所があるのは重要である。講座を通じてどうするかは難しい面もあると思う。山の会では、それぞれ居場所があり、共通の話題があり目的がある。また、サークルという言葉は、公民館が利用者に付けた見出しだと思う。サークル化ではなく、事業化できるか集まりを作れるかが重要だと思う。我々も後継者問題が出ているし、継続していくことが課題だと思う。

久米　どの公民館のサークルも高齢化と会員の減少という問題がある。会員募集はなかなか集まらない。既存のサークルと別に新しいサークルを作る方がいいと思う。この公民館には、この種のサークルがあるので企画しないと考えるのではなく、新しいサークルを作るという意味で企画してほしい。

白井　大沼公民館と花南公民館で日本語ボランティアの活動をしている。最近、外国人が増えていることからか、日本語のボランティアに参加してくれる若い人も増えている。先日は、女子高生や学芸大学の学生も参加した。サークル化することより、何をしていくのか新しい活動をどうするか、考えるべきだと思う。それにより、地域の活性化もする、ボランティア活動の活性化もする、公民館も活性化する。公民館がそのような場所になったらいいと思う。悲観的にも楽観的にもなることもない。次の世代の活動を考えるために、事業企画委員と審議会委員のこのような情報交換があっていいと思うし、今後も必要だと思う。

高橋　本日は、事業企画委員会の成果と課題について、説明があったが、各館で活動している全ての事業企画委員に届けてほしい。また、次は、中央公民館主催で希望する事業企画委員会、公運審、職員が一同に会して、年に１回開催してほしい。毎年毎年、皆さん苦労して、企画している。他館の事業企画委員会はどうしているのだろう、との悩みがあった。このような意見交換会を今後もしてほしい。「誰でも食堂」の問題もみんなで考えればいい案が出てくると思う。

会長　研修会が始まる前に、正副の３人で話したが、各館の事業企画委員会の横の繋がりを持てたらいいと思った。そのような機会があれば、各委員の悩みや課題を共有できると思った。高橋委員からの話もあったが、事業企画委員会の横のつながりを持った方がいいと思うがどうか。

瀧口　持った方がいいと思う、このような意見交換の場が悪いということはないと思う。

会長　皆さんからのご意見を聞いて、審議会でもさらに討議していきたいと思う。本日は直接、話を伺ったが、アンケートを作成してきたので、事業企画委員さんには、後ほど記入して提出してほしい。本日、事業企画委員の参加がない館の委員さんにもお願いしたい。
本日はありがとうございました。